

県内経済は、生産活動で持ち直しの動きが続いているが、雇用情勢は引き続き厳しい状況にあり、個人消費も一部に明るい動きはみられるものの総じて低調に推移するなど、厳しい状況が続いている。

1. 平成21年11月の県内経済

消費動向をみると、大型小売店販売額（全店舗ベース）は、衣料品、飲食料品、身の回り品など軒並み低調に推移し、6ヵ月連続で前年を下回った。乗用車新車販売は、補助金や減税の効果から大型乗用車および中小型乗用車が前年を上回り、合計では4ヵ月連続で前年を上回った。生産活動は、前年水準を下回ってはいるものの、持ち直し基調で推移している。投資動向をみると、公共工事前払保証取扱は、件数、請負金額とも前年を上回った。建築着工（民間・非居住用）は、棟数、床面積、工事費予定額とも前年を下回った。新設住宅着工戸数は、持家、貸家が前年を下回り、合計では3ヵ月連続で前年を下回った。倒産状況は、負債金額100万円以上の倒産件数および負債総額は、前年を下回った。雇用情勢は、新規求人倍率、有効求人倍率（原指数）とも、25ヵ月連続で前年を下回るなど厳しい状況が続いている。

〔消費動向・一部に明るい動き〕

大型小売店販売額（全店舗ベース）は、雇用・所得環境が厳しさを増す中で、衣料品を始め飲食料品や身の回り品など軒並み低調に推移し、全店舗ベースで180億29百万円（前年同月比△6.4%）と6ヵ月連続で前年を下回った。乗用車新車販売は、軽乗用車が依然低迷しているものの、大型乗用車や中小型乗用車が補助金や減税の効果から前年を上回り、合計では4ヵ月連続で前年を上回った。消費者物価指数は、前月比0.4%下降し、2ヵ月連続で前月を下回った。また前年同月比では1.9%下降し、10ヵ月連続で前年を下回った。個別企業の販売動向をみると、家電量販店は、エコポイント効果から薄型テレビが好調を持続しているものの、パソコン、デジカメ、携帯電話、洗濯機などが振るわず、合計では前年を下回り推移した。ホームセンターは、日用品、園芸植物、家庭用品、木材塗料、ペット関連などが堅調、前年を上回り推移した。旅行取扱額は、国内・海外の個人ならびに団体とも、景気低迷や所得環境の悪化などから前年を下回り推移した。

〔投資動向・減少基調〕

11月の公共工事前払保証取扱は、件数では9ヵ月連続、請負金額では3ヵ月連続でそれぞれ前年を上回った。10月の建築着工（民間・非居住用）は、棟数、床面積、工事費予定額ともそれぞれ前年を下回る動きが続いている。11月の新設住宅着工戸数は、持家、貸家が3ヵ月連続で前年を下回り、合計でも3ヵ月連続で前年を下回った。

〔生産活動・持ち直しの動き〕

10月の鉱工業生産指数（季節調整済指数）は、生産の持ち直し基調が続く中、85.2（前月比+1.7%）と2ヵ月連続で前月を上回った。原指数では90.6（前年同月比△14.0%）となり、15ヵ月連続で前年を下回った。11月の大口電力販売量は、13ヵ月連続で前年を下回っているが、紙・パルプが前年を上回り、非鉄金属や化学でもほぼ前年水準に戻りつつあるなど、総じて3月以降着実に改善基調で推移している。

〔企業倒産・減少基調〕

負債金額100万円以上の企業倒産状況は、倒産件数が4ヵ月連続で前年を下回り、負債総額も3ヵ月連続で前年を下回った。また、福島県信用保証協会の代位弁済状況は、件数、金額とも5ヵ月連続で前年を下回った。

〔雇用動向・悪化〕

新規求人倍率、有効求人倍率（原数値）は、25ヵ月連続で前年を下回った。また、季節調整値でみた新規求人倍率は、0.66倍（前月比+0.02_割）となった。有効求人倍率は0.33倍（同±0_割）と過去最低水準で推移しており、県内雇用情勢は厳しい状況が続いている。

県内経済動向の概要

	項目	前年同月比			前月比		
		9月	10月	11月	9月	10月	11月
消費動向	大型小売店販売額(全店舗)	→	→	→	→	→	→
	乗用車新車登録台数	→	→	→	→	→	→
	消費者物価指数(総合)	→	→	→	→	→	→
投資動向	公共工事前払保証取扱保証請負金額	→	→	→	→	→	→
	建設着工棟数(民間・非居住用)	→	→	-	→	→	-
	新設住宅着工戸数	→	→	→	→	→	→
生産活動	鉱工業生産指数(総合)注1	→	→	-	→	→	-
	大口電力販売量	→	→	→	→	→	→
企業倒産	企業倒産件数注2	→	→	→	→	→	→
	企業倒産金額注2	→	→	→	→	→	→
金融動向	預金	→	→	-	→	→	-
	貸出金	→	→	-	→	→	-
雇用動向	有効求人倍率(パート含む)注3	→	→	→	→	→	→
	新規求人倍率(パート含む)注3	→	→	→	→	→	→

良化 → 良化傾向にあるがほぼ横這い ⇔ 悪化傾向にあるがほぼ横這い ⇐ 悪化 ↘
 注1：前月比は季節調整値、前年同月比は原指数。注2：負債総額10百万円以上。注3：前月比は季節調整値。前年同月比は原指数。

2. 県内経済動向

— 消費動向 —

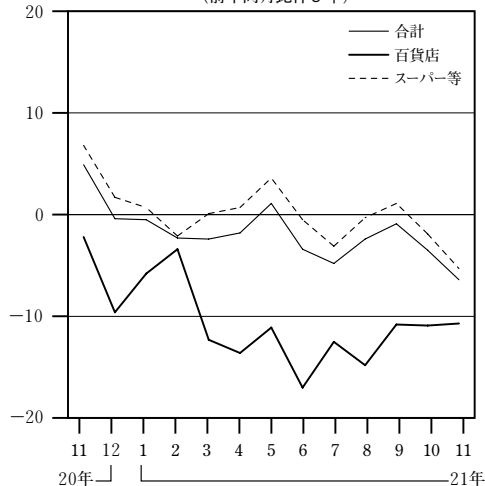
大型小売店 11月の県内大型小売店の販売額は、雇用・所得環境が厳しさを増す中で、冬物衣料が振るわなかったことに加え、飲食料品や身の回り品なども低調に推移し、全店舗ベースで180億29百万円(前年同月比△6.4%)と6ヵ月連続で前年を下回った。一方、既存店ベースでも同10.1%減と12ヵ月連続で前年を下回った。(注：既存店とは調査月において当月と前年同月とともに存在した事業所の数値。)

業態別に内訳をみると百貨店は、衣料品が主力の婦人服をはじめ全般的に振るわなかったほか、身の回り品、飲食料品も前年を大きく割り込み、全店舗ベースで33億9百万円(同△10.7%)と、既存店ベース(同△7.5%)とともに27ヵ月連続で前年を下回った。

スーパーは、節約志向が強まる中で、主力の飲食料品の売上が前年を下回ったほか、衣料品や身の回り品、家庭用品も低調に推移し、全店舗ベースで147億20百万円(同△5.3%)と2ヵ月連続で前年を下回った。一方、既存店ベースでも同10.7%減と、6ヵ月連続で前年を下回った。

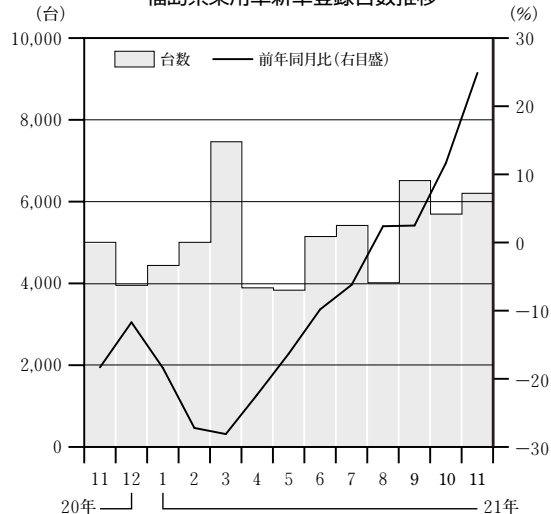
乗用車販売 11月の乗用車新車登録台数(軽乗用車含)は、合計で6,265台(前年同月比+24.9%)となり、減税や補助金効果により4ヵ月連続で前年を上回った。車種別で見ると、大型乗用車は

福島県大型小売店販売額(全店舗)
(前年同月比伸び率)



(資料：経済産業省)

福島県乗用車新車登録台数推移



(資料：福島県自動車販売店協会)

614台（同+22.3%）と16ヵ月ぶりに前年を上回った。中小型乗用車は3,603台（同+50.1%）と4ヵ月連続で前年を上回った。軽乗用車は2,699台（同△0.6%）と12ヵ月連続で前年を下回った。特に、中小型車の「1501～2000ccクラス」で、5月以降7ヵ月連続で前年を上回るなど好調に推移している。

11月の乗用車中古車販売台数（軽自動車は名義変更を含む）は、合計で8,363台（前年同月比+0.3%）と14ヵ月ぶりに前年を上回った。車種別にみると大型乗用車は2,288台（同△4.9%）と、10ヵ月連続で前年を下回った。一方、中小型乗用車は3,193台（同+3.3%）、軽乗用車は2,882台（同+1.3%）で、いずれも14ヵ月ぶりに前年を上回った。

消費者物価指数 11月の消費者物価指数は、総合指数（福島市、平成17年=100）でみると、100.3（前月比△0.4%）となり、2ヵ月連続で前月を下回った。前年同月比では1.9%下がり、10ヵ月連続で下降した。

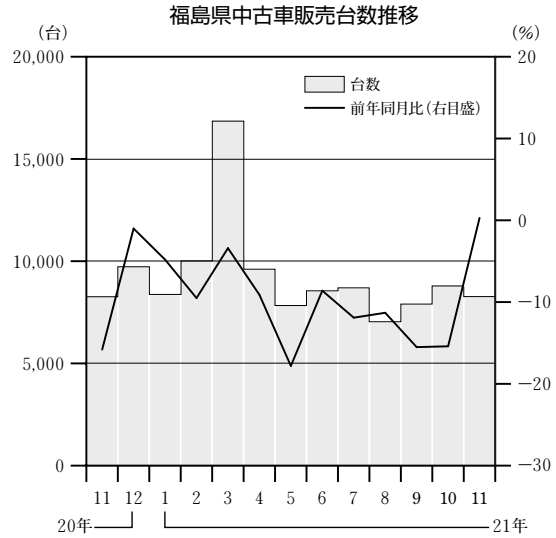
費目別の指数動向をみると、「光熱・水道」が104.2（前月比+0.2%）、「被服および履物」が106.4（同+0.1%）、「住居」が98.9（同+0.1%）と3費目で前月比上昇した。一方、「家具・家事用品」が92.5（同△1.8%）、「食料」が103.0（同△0.8%）、「教養娯楽」が94.6（同△0.8%）、「交通通信」が98.3（同△0.7%）、「保健医療」が97.8（同△0.2%）と5費目で前月比下降した。また、「教育」は103.7と8ヵ月連続同水準で推移している。

家電量販店 11月の売上状況は、エコポイント効果から薄型テレビが好調を維持しているものの、パソコン、デジカメ、携帯電話などのデジタル家電類が低調に推移し、冷蔵庫、洗濯機など白物家電も振るわなかったことから、合計では前年を下回り推移した。

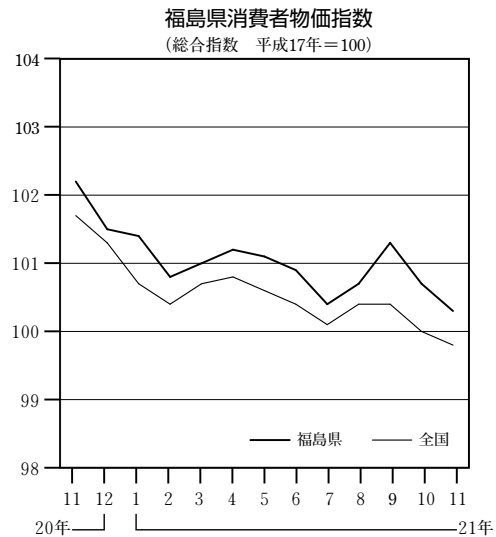
ホームセンター 11月の売上は、日用品、園芸植物、家庭用品、木材塗料、ペット関連商品などが堅調に推移し、全体では前年を上回る水準で推移した。

旅行 11月の旅行取扱額実績は、景気低迷や所得環境の悪化などから、国内・海外の個人並びに団体とも、前年を下回り推移した。

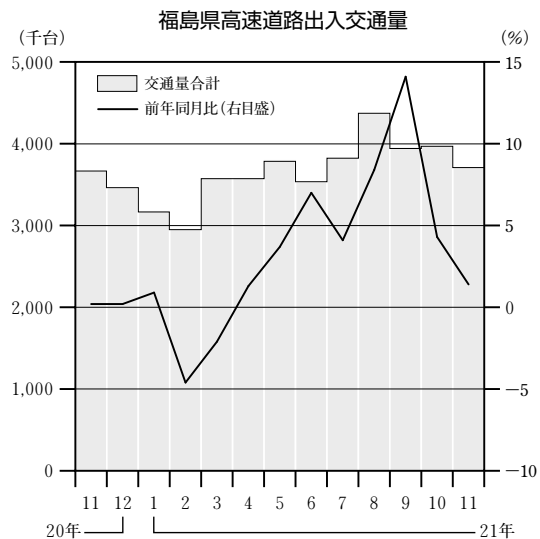
高速道路 11月の県内自動車道出入台数は、「ETC



(注) 軽自動車は名義変更台数含む
資料：(社)日本自動車販売協会連合会 福島支部
(社)全国軽自動車販売協会連合会



(資料：総務省統計局)



(資料：東日本高速道路(株)東北支社)

割引制度」の効果などから、3,730,454台（前年同月比+1.4%）と8ヵ月連続で前年を上回った。路線別にみると、東北自動車道（白河IC～国見IC）は2,191,921台（同△0.6%）と6ヵ月ぶりに減少、磐越自動車道（いわき三和IC～郡山東IC）は243,573台（同△7.5%）と2ヵ月連続で前年を下回った。磐越自動車道（磐梯熱海IC～西会津IC）は553,270台（同+4.6%）と4ヵ月連続で前年を上回った。常磐自動車道（いわき勿来IC～常磐富岡IC）は741,690台（同+8.7%）と8ヵ月連続で前年を上回った。

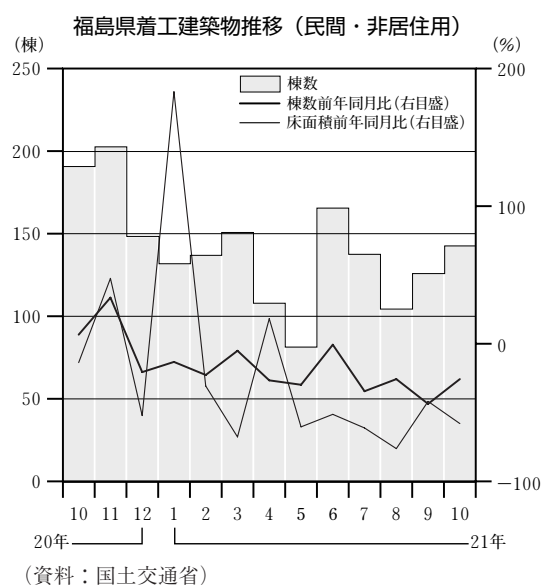
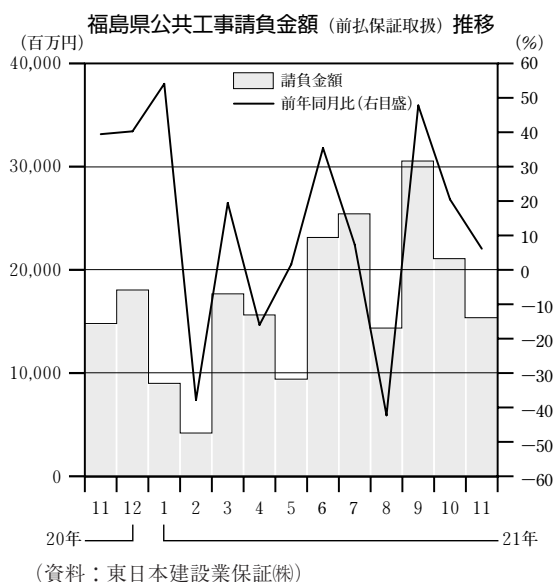
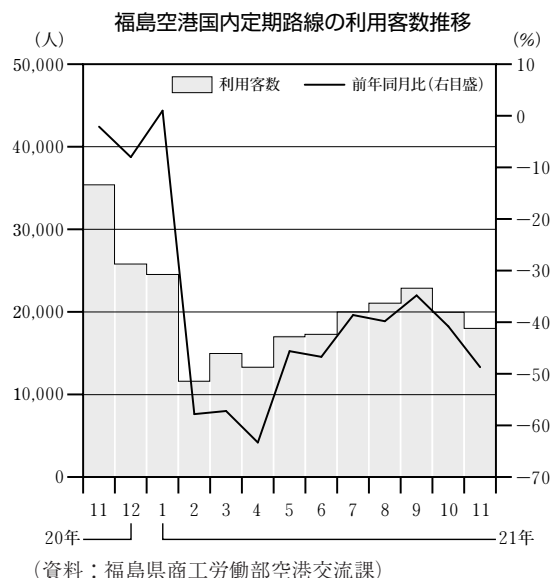
福島空港 11月の福島空港国内定期路線の利用状況は、平成21年1月の日本航空の撤退に伴う大阪（関空発着）・沖縄両路線の廃便により、18,234人（前年同月比△48.7%）と前年を大きく下回った。路線別にみると、札幌便は7,945人（同+10.9%）と13ヵ月ぶりに前年を上回った。大阪便は10,289人（同△40.9%）と23ヵ月連続で前年を下回った。一方、国際定期路線の利用状況は、4,759人（同+34.0%）と13ヵ月ぶりに前年を上回った。路線別にみるとソウル便は3,179人、上海便は1,580人となっている。

—— 投資動向 ——

公共工事 11月の公共工事前払保証取扱は、件数が630件（前年同月比+9.2%）と9ヵ月連続で前年を上回った。また、請負金額は154億81百万円（同+5.0%）、保証金額は62億97百万円（同+7.6%）となり、それぞれ3ヵ月連続で前年を上回った。

なお、年度累計（2009年4月～11月）では、件数が前年同期比656件増加し、5,119件（前年同期比+14.7%）、請負金額が同75億12百万円増加し、1,551億80百万円（同+5.1%）、保証金額が28億17百万円増加し、588億38百万円（同+5.0%）となっている。

11月の主な発注者別の請負金額は、国が前年比2億72百万円減少し、21億76百万円（同△11.1%）となった。独立行政法人等（東日本高速道路(株)など）は同4億27百万円減少し、52百万円（同△89.2%）となった。県は同3億15百万円増加し、32億53百万円（同+10.7%）となった。市町村は同8億12百万円増加し、95億65百万円（同+9.3%）となった。



設備投資 10月の建築着工（民間・非居住用）は、棟数が144棟（前年同月比△25.0%）と4ヵ月連続で前年を下回った。床面積は32,583㎡（同△57.3%）、工事費予定額は64億1百万円（同△45.2%）となり、それぞれ6ヵ月連続で前年を下回った。

11月の建築物確認件数（計画変更を除く）は、712件（前年同月比+7.1%）と14ヵ月ぶりに前年を上回った。建築物別にみると、1～3号建物（一定規模以上の建築物が対象）は124件（同△16.8%）と14ヵ月連続で前年を下回った。4号建物（小規模な木造・非木造住宅などが対象）は588件（同+14.0%）と14ヵ月ぶりに前年を上回った。「構造計算適合性判定合格件数」は8件と前月比2件減少し、3ヵ月連続で前月を下回った。

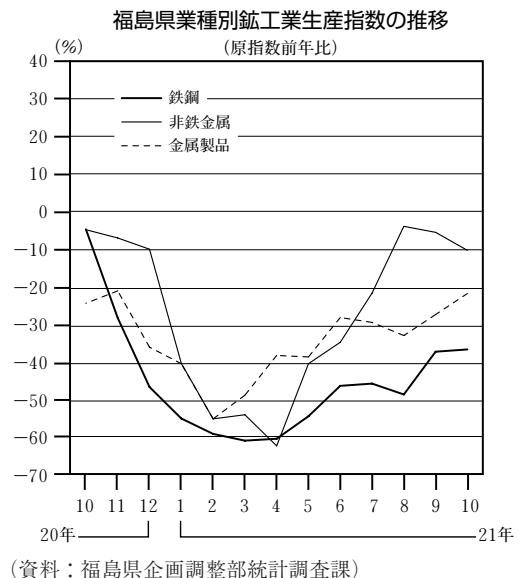
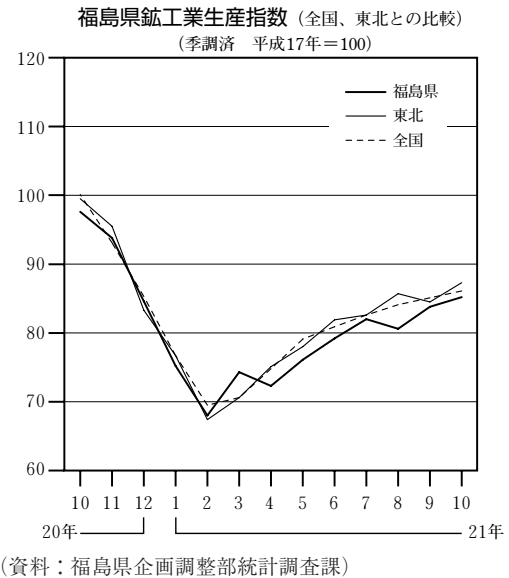
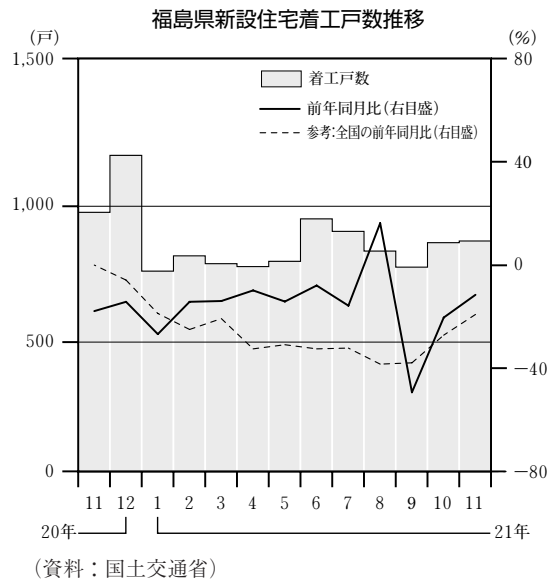
建築物着工の先行指標である11月の建築物申請件数は、720件（同+9.1%）と13ヵ月ぶりに前年を上回った。建築物別にみると、1～3号建物は137件（同△2.8%）と6ヵ月連続で前年を下回った。4号建物は583件（同+12.3%）と2ヵ月連続で前年を上回った。「構造計算適合性判定申請件数」は10件と、前月比1件減少し、2ヵ月連続で前月を下回った。

住宅建設 11月の県内新設住宅着工戸数は、837戸（前年同月比△11.5%）と3ヵ月連続で前年を下回った。主な利用関係別にみると、「持家」は460戸（同△8.2%）、「貸家」は310戸（同△24.0%）となり、それぞれ3ヵ月連続で前年を下回った。「分譲住宅」は66戸（同+94.1%）と2ヵ月連続で前年を上回った。分譲住宅のうちマンションの着工戸数は、8ヵ月連続でゼロとなっている。

生産活動

鉱工業生産指数 10月の鉱工業生産指数は、季節調整済指数でみると85.2（前月比+1.7%）となり、2ヵ月連続で前月を上回った。原指数は90.6（前年同月比△14.0%）となり、15ヵ月連続で前年を下回った。

上昇および低下した主な業種別（季節調整済指数）では、繊維工業で49.4（前月比+20.8%）、一般機械工業で66.7（同+11.2%）、化学工業で98.0（同+8.4%）など8業種で上昇した。一方、木材・木製品工業で61.7（同△9.5%）、印刷業で105.3（同△9.4%）、パルプ・紙・紙加工品工業



で82.2（同△8.9%）など12業種で下降した。

化学 11月の食品包装フィルム用合成樹脂やフッ素樹脂、金属代替プラスチック、医薬品の生産は好調だったものの、炭素繊維、工業製品（化成ソーダ等）などは前年を下回り推移した。酸化チタン（白色顔料、自動車用塗料向け）の生産は、前年をやや下回ったが、バリウム化合物（電子部品原料）の生産は、前年並みの水準で推移した。

鉄鋼・金属 11月の伸銅品の生産は、半導体向け電子材および自動車向け端子材とも前年を上回る水準で推移した。建機用鋳造品の生産は、国内外向けとも低調、前年を大幅に下回った。車両用鋳造品は、新幹線、JR 在来線の更新需要および海外需要に支えられ、好調に推移した。船舶用バルブ部品は前年を上回ったが、陸上プラント用バルブ部品は前年を下回る水準で推移した。

輸送用機械 11月の自動車用鋳造品の生産は、海外向けが復調し、前年を上回り推移した。自動車用オイルシールの生産は、ハイブリッドカー向けが好調、緩やかながらも持ち直しの動きが続いている。カーナビ・カーオーディオの生産は、前年水準を下回っているものの、持ち直しの動きが続いている。

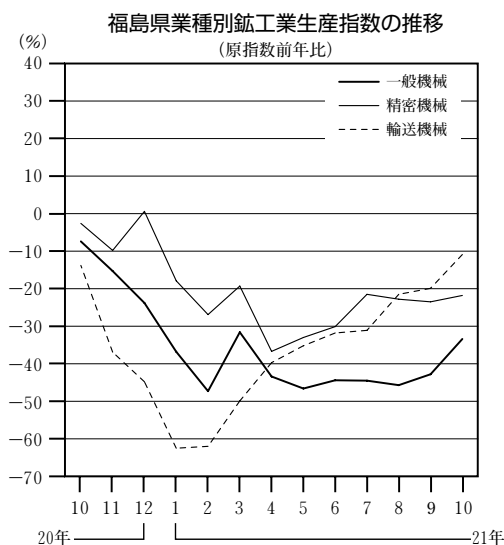
電気機械 11月の変圧器の生産は堅調だったものの、配電盤、電熱炉、自動車モーターの生産が振るわず、前年を下回る水準で推移した。

情報通信機械 11月の携帯電話中継局用マイクロ波通信機器の生産は、主力のインド向けが低調、前年を下回る水準で推移した。衛星通信機器関連、FA 関連機器の生産は、前年並みの水準で推移した。

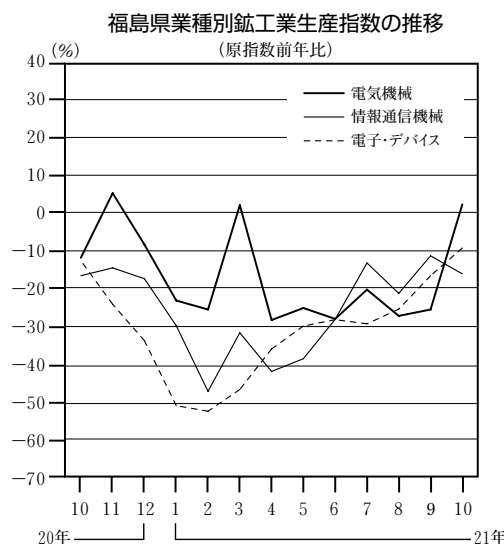
電子部品・デバイス 11月のLSI（大規模集積回路）の生産は、車載品が堅調、パソコン・OA 向けも持ち直してきたが、AV・ゲーム機・家電、産業機器を始め、携帯電話、通信向けなどが低調に推移し、全体では前年を下回る水準となった。

精密機械 11月の医療用内視鏡の生産は、前年並みの水準で推移した。デジタル一眼レフカメラ用レンズは、回復基調にあるが、前年を下回る水準で推移した。

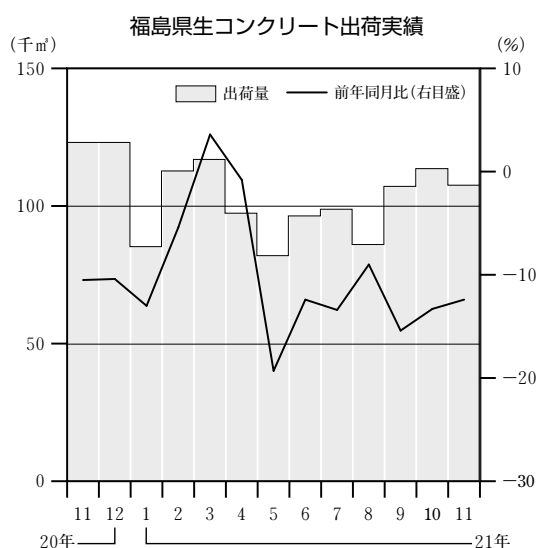
紙・紙加工品 11月の段ボールの生産は、IT 製品向けが低迷、前年をやや下回る水準で推移した。また、ノーカーボン紙の生産は前年を上回ったが、感熱紙、インクジェット紙の生産は、前年



(資料：福島県企画調整部統計調査課)



(資料：福島県企画調整部統計調査課)



(資料：福島県生コンクリート工業組合)

を下回る水準で推移した。

窯業・土石 11月の生コンクリート出荷量は、全体で108,368^m（前年同月比△12.4%）と8ヵ月連続で前年を下回った。増加地区についてみると、官公需では、いわき地区で港湾護岸工事、下水道関連工事等により、民需では相双地区で高速道路建設工事、原発改修工事等により増加した。

清酒 11月の清酒移出数量は、1,632kl（前年同月比△4.9%）と14ヵ月連続で前年を下回った。タイプ別では、特定名称酒（吟醸酒・純米酒・本醸造酒）が570kl（同△0.8%）と8ヵ月連続で前年を下回った。一般酒（特定名称酒以外の酒）は、1,062kl（同△7.0%）と14ヵ月連続で前年を下回った。

化合繊維物 11月のナイロンの生産はダウンジャケット（表地）向けを中心に、前年を下回る水準で推移した。ポリエステル生産も、紳士服、婦人服の裏地向けなど前年を下回る水準で推移した。

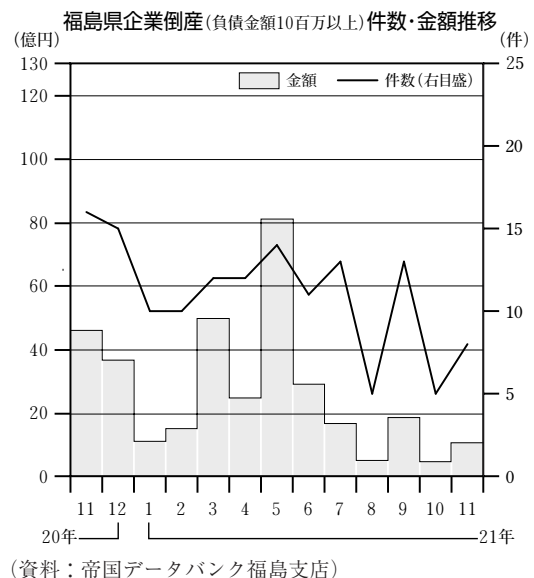
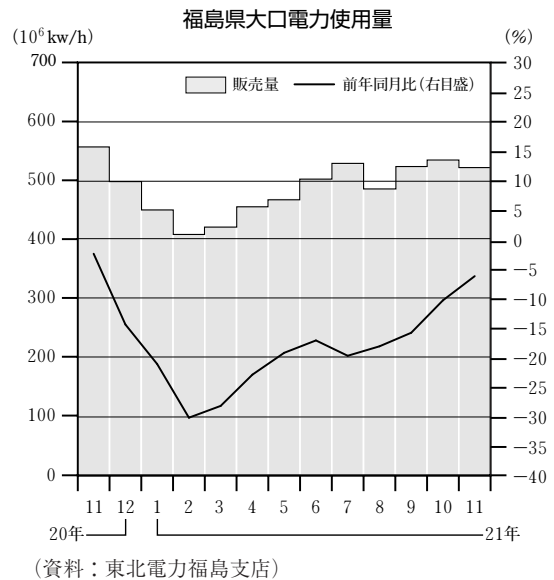
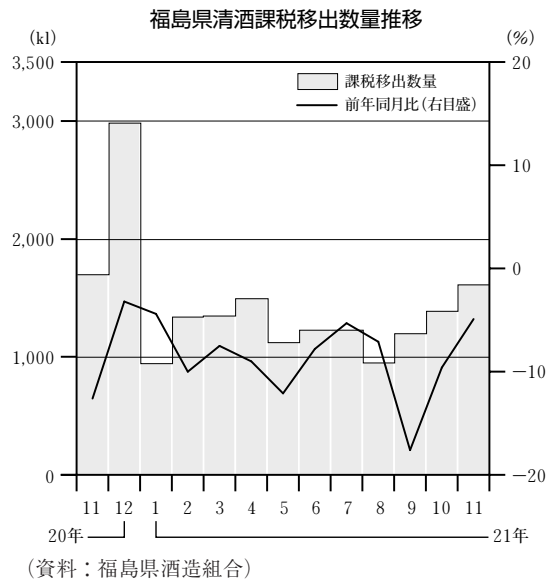
ニット 11月のニットの生産は、冬物生産がピークを迎えているが、国内需要の低迷から、受注・生産は低調な水準で推移した。

大口電力 11月の大口電力販売量は、524百万kw/h（前年同月比△6.1%）と13ヵ月連続で前年を下回った。大口主要販売先を業種別にみると、「非鉄金属」で116百万kw/h（同△5.9%）、「電気機械」で105百万kw/h（前年同月比△10.9%）、「化学」で58百万kw/h（同△3.2%）、「輸送用機械」で51百万kw/h（同△2.8%）、「一般機械」で23百万kw/h（同△16.0%）となりそれぞれ前年を下回った。一方、「紙・パルプ」は21百万kw/h（同+11.3%）となり、前年を上回った。

— 企業倒産 —

企業倒産 11月の企業倒産（負債金額10百万円以上）は、倒産件数が8件（前年同月比△50.0%）となり、4ヵ月連続で前年を下回った。負債総額は10億62百万円（同△77.0%）となり、3ヵ月連続で前年を下回った。

年間累計（2009年1月～11月）では、倒産件数が前年同期比47件減少し、113件（前年同期比△29.4%）、負債金額が同483億51百万円減少し、



267億59百万円（同△64.4%）となっている。

11月の倒産主因別内訳は、8件全てが受注・販売不振、業界不振など不況型倒産であった。業種別内訳は、建設業が3件、卸売業、小売業が各2件、製造業が1件となった。また、地区別内訳は、県北が2件、県南が5件、浜通りが1件となり、会津はゼロであった。

金融動向

資金需要 県内金融機関（全国銀行、第二地銀、信用金庫、信用組合の県内店舗分）の10月末の預金残高は、6兆4,180億円（前年同月比+3.0%）と32ヵ月連続で前年を上回った。また、貸出金残高は、3兆8,650億円（同+1.1%）と16ヵ月連続で前年を上回った。

※県内金融機関の11月末の預金ならびに貸出残高については、データ未入手につき10月末のデータを参考として掲載いたしました。

保証協会 11月の保証承諾は、件数が1,133件（前年同月比±0.0%）、保証金額が118億57百万円（同△12.3%）となり、11月末日現在の保証債務残高は、件数が43,603件（同+6.5%）、金額が3,514億1百万円（同+21.7%）となった。11月中の代位弁済は、件数が76件（同△2.6%）、金額が4億90百万円（同△8.1%）となり、それぞれ5ヵ月連続で前年を下回った。

雇用動向

雇用動向 11月の新規求人数（原数値）は、7,476人（前年同月比△10.4%）と25ヵ月連続で前年を下回った。一方、新規求職申込件数（原数値）は、9,892件（同+11.4%）と15ヵ月連続で前年を上回った。

新規求人倍率（季節調整済、パート含）は、0.66倍（前月比+0.02㊦）と前月を上回った。原数値は0.76倍（前年同月比△0.18㊦）と25ヵ月連続で前年を下回った。有効求人倍率（季節調整済、パート含）は、0.33倍（前月比±0㊦）となり、昭和38年1月の統計開始以来過去最低の水準で推移している。原数値は0.36倍（前年同月比△0.27㊦）と25ヵ月連続で前年を下回った。

